

笠間市次世代育成支援後期行動計画策定に伴う  
アンケート結果報告書（概要版）

－ 就学前児童・就学児童 －

平成21年7月

笠 間 市

## 1 調査の目的

次世代育成支援対策推進法の規定に基づく「行動計画」の見直しにあたり、就学前児童及び小学校児童の保護者を対象としたアンケート調査を実施し、保育ニーズや子育て支援、教育環境等に関わる要望・意見等を把握し、笠間市次世代育成支援後期行動計画の推進のための基礎資料とすることを目的とする。

## 2 調査の設計

調査の種類：

調査名	対象者
①就学前児童調査	住民基本台帳より該当児童のいる4,399世帯から1,200世帯を無作為に抽出
②就学児童調査	住民基本台帳より該当児童のいる4,515世帯から1,200世帯を無作為に抽出

調査方法：①就学前児童調査 郵送配布・郵送回収  
②就学児童調査 学校を通じて配布回収

調査期間：平成21年2月16日～平成21年3月10日

## 3 回収結果

調査名	発送数	有効回答数	有効回答率
①就学前児童調査	1,200	627	52.3%
②就学児童調査	1,200	988	82.3%

## 4 集計・分析にあたって

### (1) 回答率について

回答は、質問ごとに各項目の回答者数を回答者総数で除し、百分率（パーセント）で表示している。算出された回答率は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示している。そのため、質問によっては、1人の回答者が1つだけ回答する場合（単数回答）でも、回答率の合計が100%ちょうどにならないものもある。

また、1人の回答者が2つ以上の回答をしてもよい場合（複数回答）では、回答率の合計は100%を上回ることもある。

### ○就学前児童の年齢区分について

生年月をもとに区分した。

年齢区分	生年月
1. 0歳児	平成20年4月～平成20年11月、平成19年4月～平成20年3月
2. 1歳児	平成18年4月～平成19年3月
3. 2歳児	平成17年4月～平成18年3月
4. 3歳児	平成16年4月～平成17年3月
5. 4歳児	平成15年4月～平成16年3月
6. 5歳児	平成14年4月～平成15年3月

## 5 調査結果の概要

### (1) 就学前児童の保育ニーズ等

◆今回のアンケートで、就学前児童の現在の家庭類型をみると「父母同居」が9割を占める中で父または母の「ひとり親家庭」が5.3%であり、この家庭の保育ニーズは比較的高いことが予測される。(図1)

また、本市は祖父母同居や近居の割合が比較的高く「日常的に祖父母等親族に預かってもらっている」とした人が35.6%、「緊急時に預かってもらう」とした人は約6割に達しており、現実的に祖父母等が保育ニーズの担い手になっている状況がうかがえる。(図2)

しかし、祖父母等に「負担をかけていることが心苦しい」と保護者の3割が回答していることから、一概に祖父母等が預かってくれているからといってすべての家庭において保育ニーズがないとはいえない。(図3)

図1：父母・祖父母の同居・近居の状況〈複数回答〉

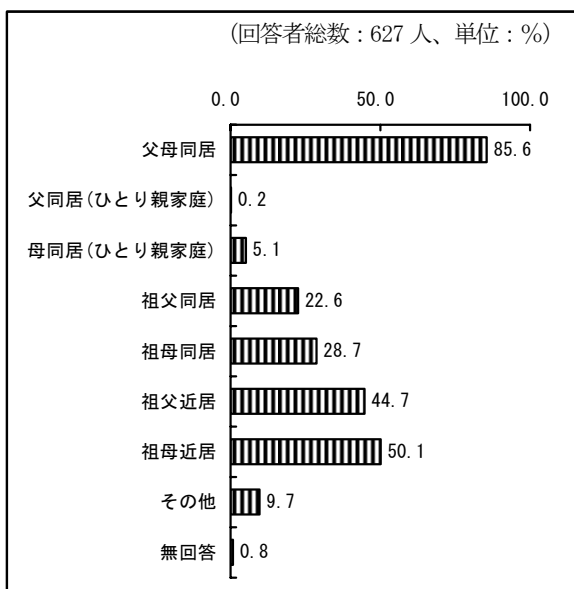


図2：日頃子どもを預かってもらえる人〈複数回答〉

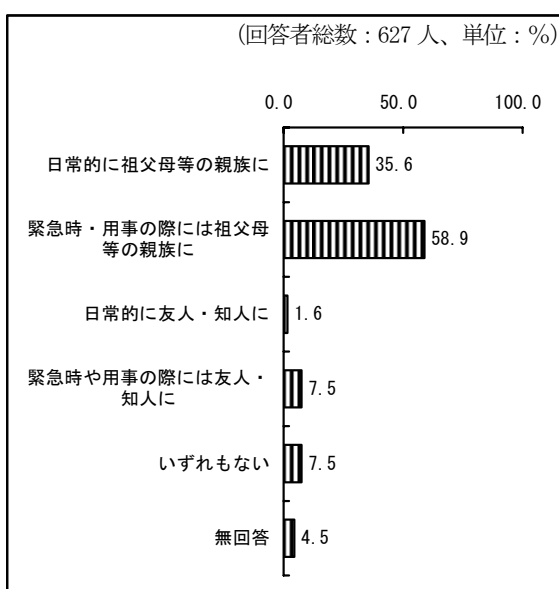
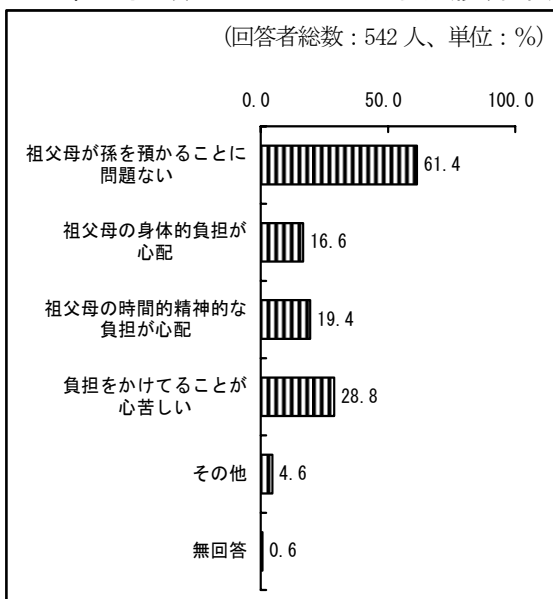


図3：祖父母に預かってもらっている状況〈複数回答〉



◆就学前児童のいる母親の就労状況をみると、「フルタイムとパートタイムをあわせて5割が就労している」と回答し、パートタイムであっても週平均4.6日、一日平均5.6時間就労している。(図4・表1)

また、現在就労していない5割の母親の就労希望をみると、そのうちの3割の母親が「1年以内に就労したい」と回答し、「1年より先に就労したい」をあわせると9割と高い。(図5)

図4：母親の就労状況

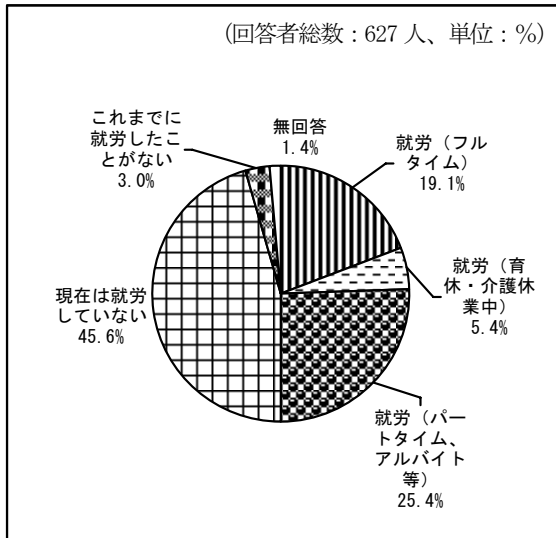


図5：母親の就労希望の有無

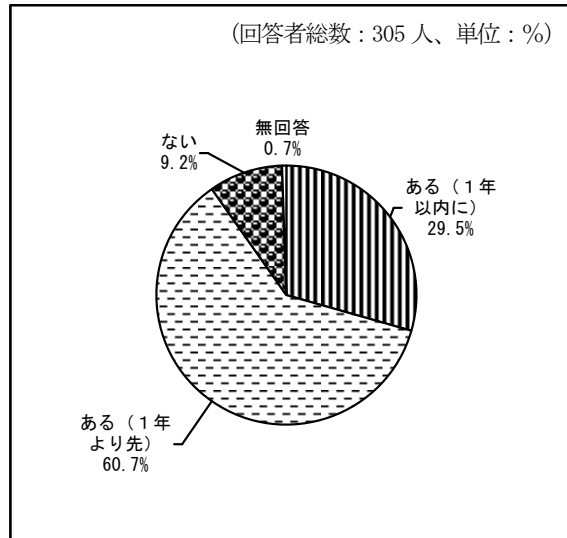


表1：母親のパートタイム1週当たり、1日当たり勤務時間

母親-パート 1週当たり勤務日数	人	%	母親-パート 1日当たり勤務時間	人	%
回答者総数	159	(100.0)	回答者総数	159	(100.0)
1日	4	( 2.5)	1時間	0	( 0.0)
2日	3	( 1.9)	2時間	3	( 1.9)
3日	18	(11.3)	3時間	11	( 6.9)
4日	39	(24.5)	4時間	34	(21.4)
5日	72	(45.3)	5時間	35	(22.0)
6日	12	( 7.5)	6時間	30	(18.9)
無回答	11	( 6.9)	7時間	22	(13.8)
			8時間	16	(10.1)
			9時間	1	( 0.6)
			無回答	7	( 4.4)

◆現在の保育サービス（認可保育園に加え、その他保育施設、幼稚園、ベビーシッター等を含む）の利用状況を見ると約半数が何らかのサービスを利用しており、3～5歳児の子がいる母親では8割に達する。そのうちの半数強は、預かり保育を含めた幼稚園であるが、「公立や私立の保育所（園）」も4割となっている。（表2・図6）

特に、土曜日の保育の利用希望をみると「ほぼ毎週」と「月1～2回」をあわせると33.8%に達し、前回調査（旧笠間市25.1%、旧友部町31.1%、旧岩間38.0%）と比べると地区によっては比較的高くなっている。（図7）

なお、日曜・祝日の保育サービスも約2割が希望している。（図8）

表2：保育サービスの利用の有無

単数回答	全体	年齢区分別	
		0～2歳	3～5歳
回答者総数	627(100.0)	334(100.0)	291(100.0)
利用している	301(48.0)	75(22.5)	225(77.3)
利用していない	318(50.7)	257(76.9)	60(20.6)
無回答	8(1.3)	2(0.6)	6(2.1)

図6：現在利用しているサービス内容〈複数回答〉

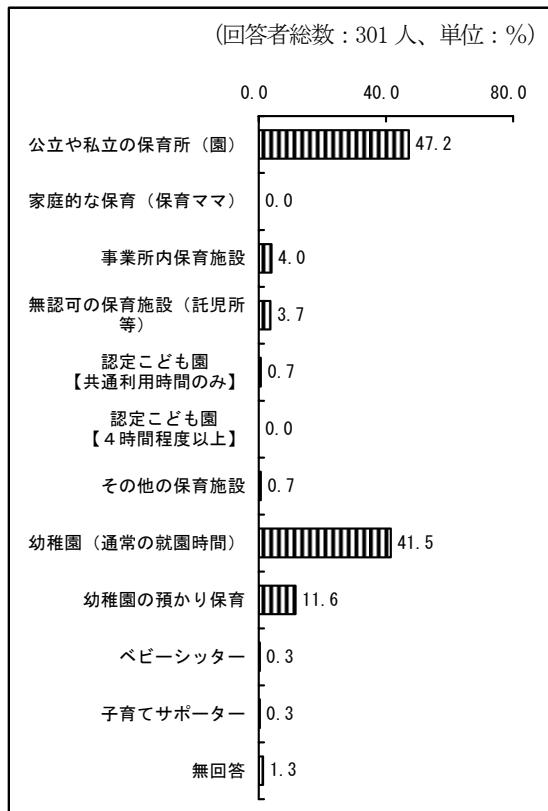


図7：土曜日の利用希望の有無

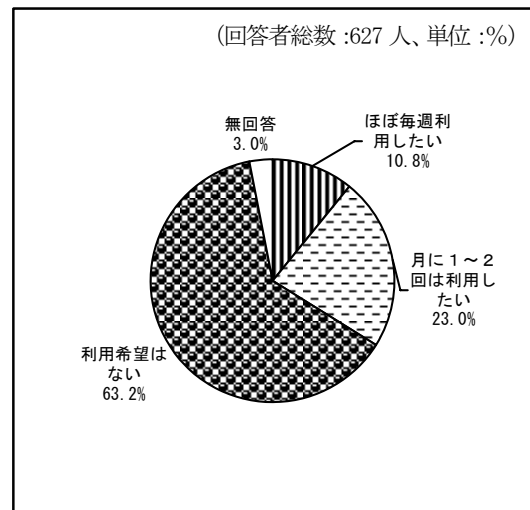
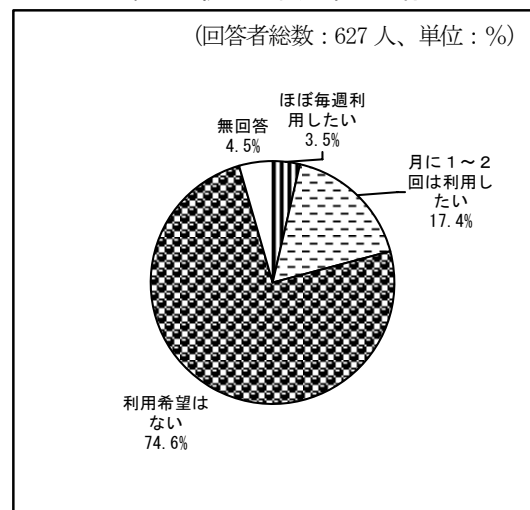


図8：日曜日・祝日の利用希望の有無



◆病児・病後児保育については、保育サービスを利用している人の6割の家庭がこの1年間に母親が休んだり、親族・知人に預けたりした経験があり、保育サービスの今後の希望でも病児・病後児保育のニーズが22.2%あり比較的高い。(図9・図10・表2)

一時預かり(一時保育)については、この1年間に3割弱の母親が私用や冠婚葬祭、保護者の病気等の理由で家族以外に預けた経験があり、その理由を「就労」とした人も4割と高い。また、ベビーシッターや子育てサポーターの利用は少ない状況であった。(図11・図12)

図9: 病気等で保育サービスを利用できなかったこと有無

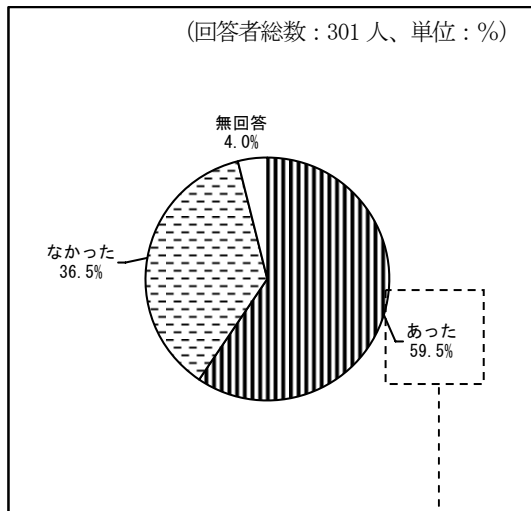


表2: 保育サービスの利用の有無

今後利用したいサービス	【複数回答】
回答者総数	627 (100.0)
公立や私立の保育所(園)	132 (21.1)
家庭的な保育(保育ママ)	20 (3.2)
事業所内保育施設	55 (8.8)
無認可の保育施設(託児所等)	6 (1.0)
認定こども園【共通利用時間のみ】	24 (3.8)
認定こども園【4時間程度以上】	31 (4.9)
その他の保育施設	1 (0.2)
幼稚園(通常の就園時間)	119 (19.0)
幼稚園の預かり保育	105 (16.7)
延長保育	59 (9.4)
ベビーシッター	8 (1.3)
子育てサポーター	39 (6.2)
一時預かり	103 (16.4)
病児・病後児保育	139 (22.2)
特にない	111 (17.7)
無回答	56 (8.9)

図10: 対処方法<複数回答>

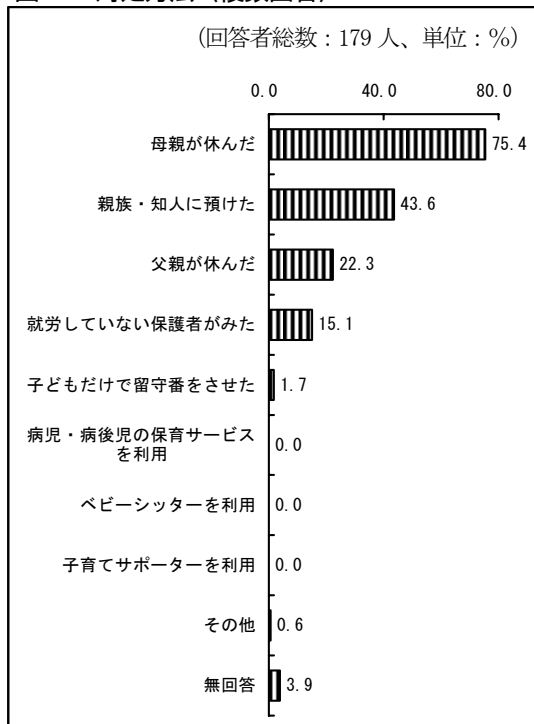


図11: 1年間に家族以外の誰かに一時的に預けたことの有無

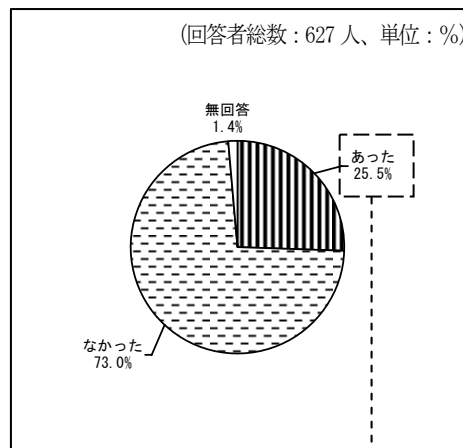
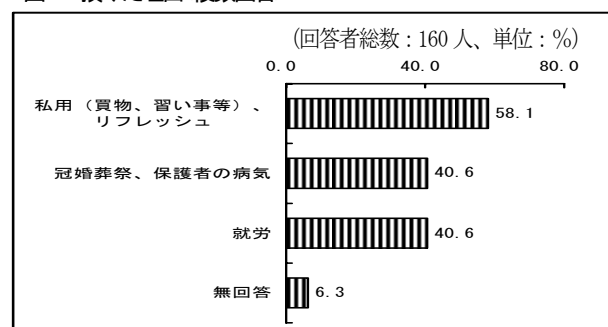


図12: 預けた理由<複数回答>



◆地域の子育て支援については、「子育て支援センター等を利用している」と回答した人は1割程度に止まるが、今後（今後とも）利用したい人を見ると2割である。（図13）

また、利用していない人の理由は「特に理由はない」が最も高いが、「サービスの利用方法がわからない」も15.2%であるため、今後とも子育て支援センターの周知等が求められる。

（図14）

さらに、子育て支援サービスの認知度・利用意向では“子育て広場”や“子育て支援センター”“子育て交流広場”の認知度・利用意向とも比較的高く、自由記述でも多くの意見がだされている。特に、友部保健センターで実施してきた子育て支援事業“かるがもサークル”等に関する意見も比較的多くあげられた。

図13：地域子育て支援拠点事業の利用状況

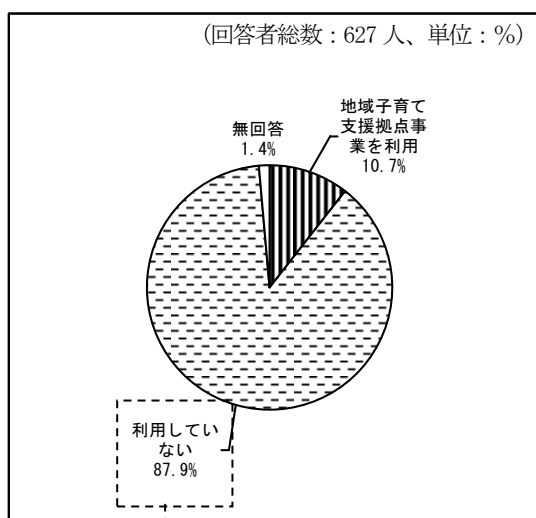
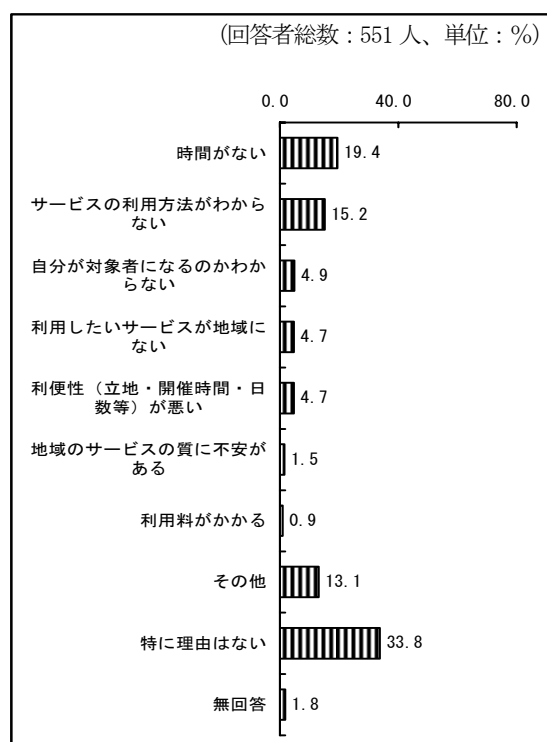


図14：利用していない理由





## (2) 就学児童の保育ニーズ等

◆就学児童の家庭類型をみると、父または母の「ひとり親家庭」が12.5%あり、就学前児童と比べると7.2ポイント高い。(図15) また、「日常的に祖父母等親族に預かってもらっている」とした人が43.2%で、就学前児童の35.6%と比べて7.6ポイント高くなる。(図16)

図15：父母・祖父母の同居・近居の状況〈複数回答〉

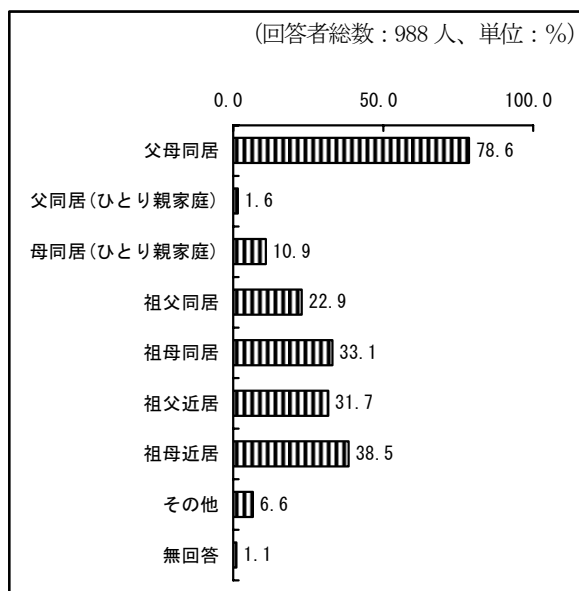
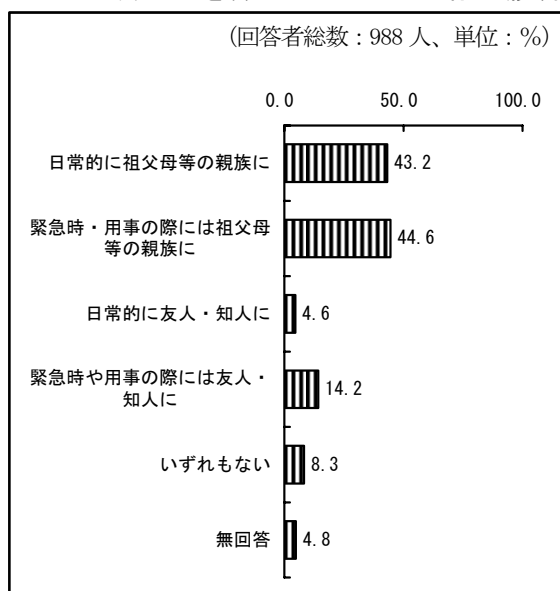


図16：日頃子どもを預かってもらえる人の有無〈複数回答〉



◆就学児童のいる母親の就労状況をみると、フルタイムとパートタイムをあわせて75.0%が就労しており、就学前児童の5割と比べると高い。(図17)

しかし、現在就労していない2割の母親の就労希望をみると、そのうちの7割強の母親は「1年以内もしくは1年より先に就労したい」と回答しているが、その他2割の母親については、「今後とも就労希望がない」としている。(図18) また、希望する就労形態は「パートタイム、アルバイト等」が8割以上を占める。(図19)

図17：母親の就労状況

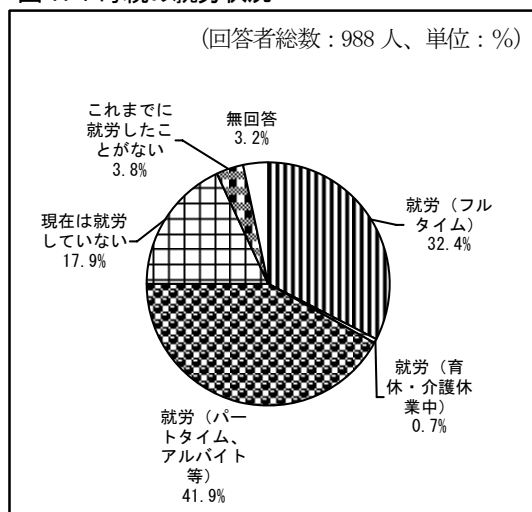


図18：母親の就労希望の有無

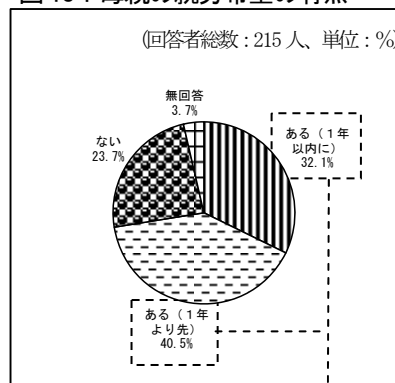
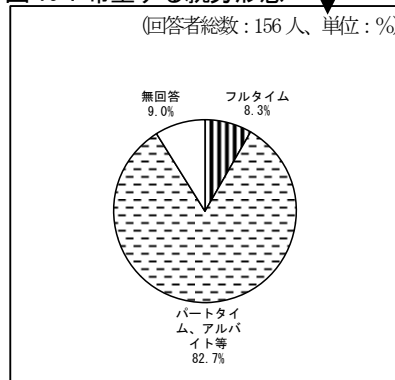


図19：希望する就労形態



◆放課後児童クラブの利用状況は、小学1年生では27.6%、小学2年生では20.2%、小学3年生では14.5%が「利用している」と回答している。(図20・表4) そのうち、1割強の家庭が土・日曜日の利用希望も「ある」と回答している。(図21) 利用していない家庭の多くは、「就労していないから」等の理由であるが、具体的な意見として、就労していても「祖父母等がいるから」や「親が短時間勤務などのため」との回答もある。(図23)

また、放課後児童クラブを利用していない約9割の家庭に今後の利用意向をたずねたところ、小学1年生で24.3%、小学2年生で22.2%、小学3年生で11.5%の新たな利用希望があった。理由の多くは「現在就労している」が4割で高く「そのうち就労したい」が2割で、現在は専業主婦の家庭も多い。(図24)

図20：放課後児童クラブの利用の有無

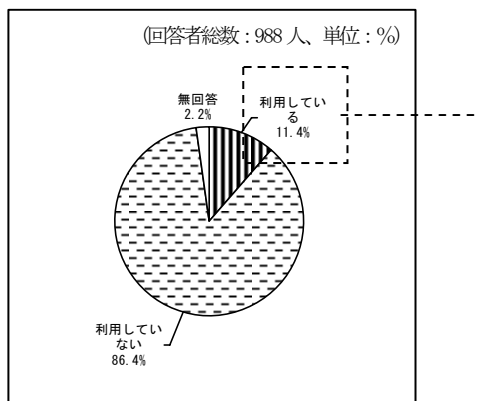


表4：学年別の利用者割合 (単位：人 (%) )

	利用している	利用していない
1年生	40 ( 27.6 )	103 ( 71.0 )
2年生	26 ( 20.2 )	100 ( 77.5 )
3年生	25 ( 14.5 )	148 ( 85.5 )

注) 割合は、「無回答」を除く。

図21：土・日曜日の利用の有無

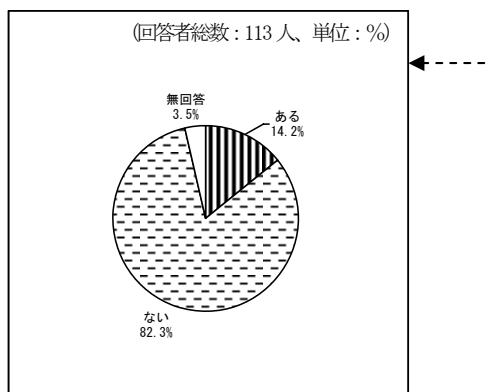


図22：今後の利用希望

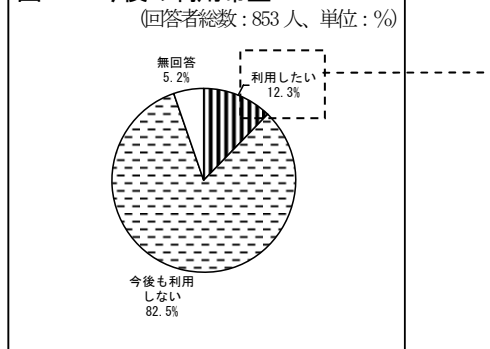


図23：放課後児童クラブを利用していない理由

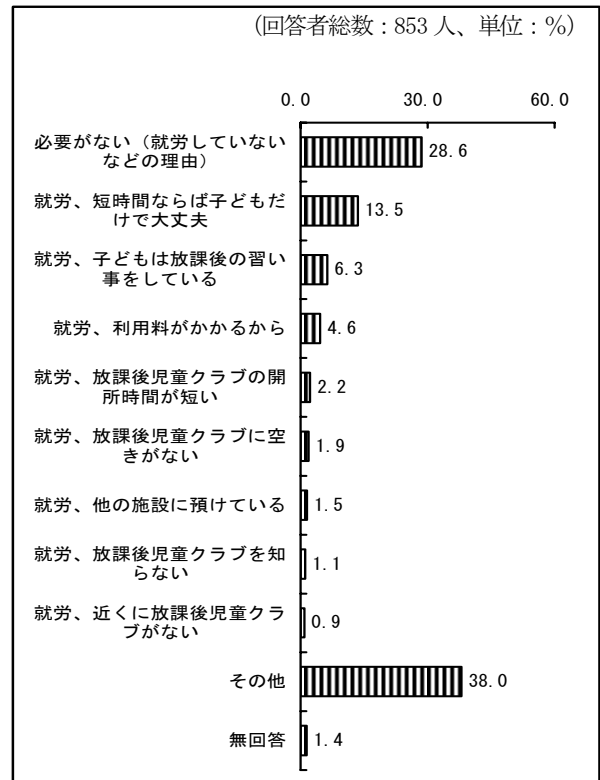
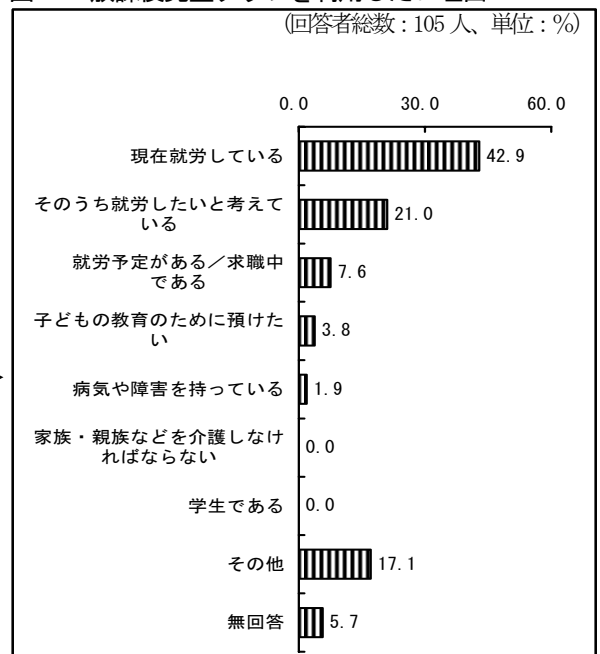


図24：放課後児童クラブを利用したい理由



◆地域住民の参画のもとで、すべての子どもを対象として放課後の居場所・交流に取り組む『放課後子ども教室』については、運営スタッフの確保等の課題が聞かれる中で笠間市においても既にいくつかの小学校で実施している。「今後利用意向がある」との回答は18.0%あり、その中には放課後児童クラブに通う子どもたちも2割含まれている。(図25)

また、小学校1～2年生は3割弱の希望があるが、高学年では1割程度と低い。全体として、放課後の過ごし方の希望については、「放課後児童クラブ」が12.9%、「放課後子ども教室」が15.4%、その他は「クラブ活動や習い事」が29.1%、「利用希望はない」が31.2%としている。(図26・表5)

図25：『放課後子ども教室』の利用意向

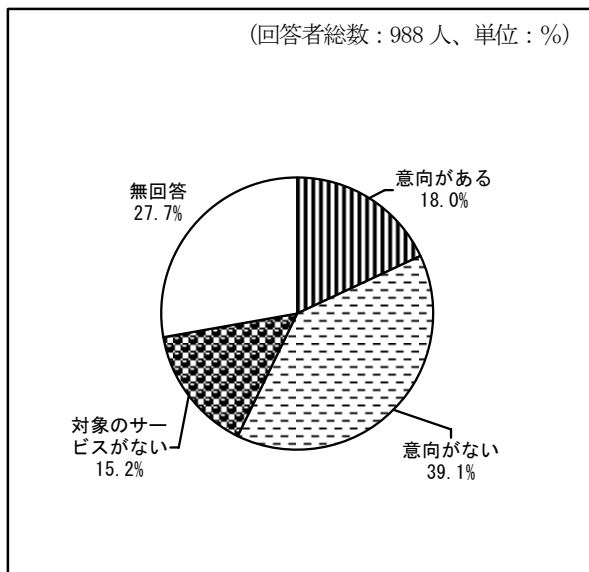


図26：放課後の過ごし方で望むこと〈複数回答〉

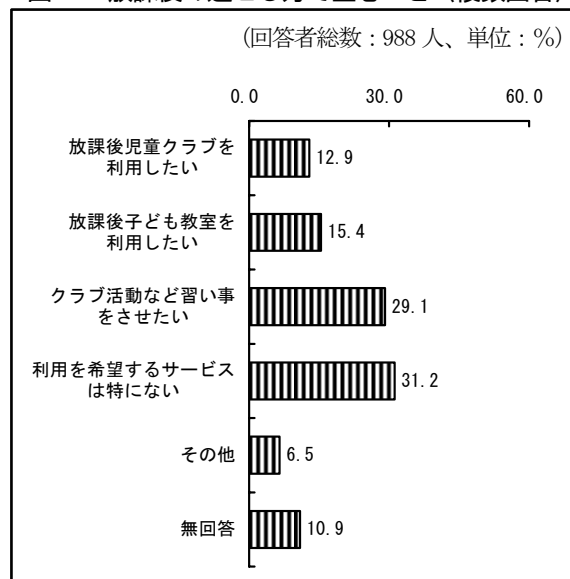


表5：放課後の過ごし方で望むこと（一部の選択肢のみ掲載）

単数回答	全体	学年別		
		1年生	2年生	3年生
回答者総数	988 (100.0)	145 (100.0)	129 (100.0)	173 (100.0)
放課後児童クラブを利用したい	127 (12.9)	29 (20.0)	24 (18.6)	25 (14.5)
放課後子ども教室を利用したい	152 (15.4)	34 (23.4)	22 (17.1)	29 (16.8)
クラブ活動など習い事をさせたい	288 (29.1)	58 (40.0)	41 (31.8)	46 (26.6)
利用を希望するサービスは特にはない	308 (31.2)	27 (18.6)	32 (24.8)	56 (32.4)

単数回答	学年別		
	4年生	5年生	6年生
回答者総数	194 (100.0)	172 (100.0)	168 (100.0)
放課後児童クラブを利用したい	16 (8.2)	22 (12.8)	9 (5.4)
放課後子ども教室を利用したい	29 (14.9)	22 (12.8)	15 (8.9)
クラブ活動など習い事をさせたい	52 (26.8)	49 (28.5)	40 (23.8)
利用を希望するサービスは特にはない	71 (36.6)	52 (30.2)	70 (41.7)

◆病児・病後児の対応については、子どもが学校を休んだ際、この1年間に5割の家庭の母親が休んだり、親族・知人に預けたりして対応している現状がみられるが、「子どもだけで留守番をさせた」とする人も1割いる。（図27・図28）

また、一時預かり（一時保育）については、2割強の母親が「この1年間に私用や冠婚葬祭、保護者の病気等の理由で家族以外に預けたことがあった」と回答し、「就労」を理由にした人も5割で就学前児童に比べて高い状況である。（図29・図30）

図27：1年間に病気やケガで学校を休んだことの有無

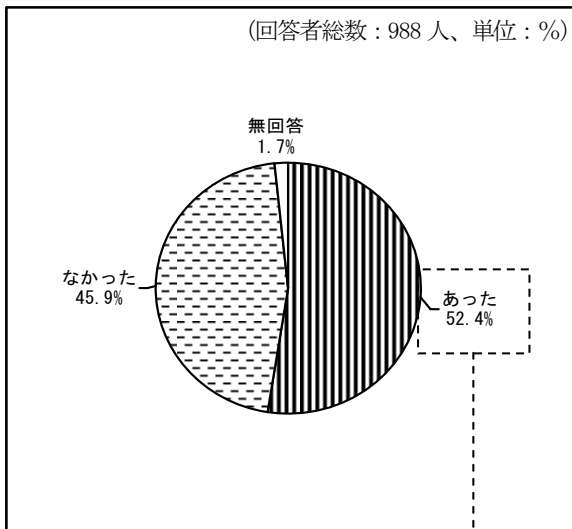


図29：1年間に家族以外の誰かに一時的に預けたことの有無

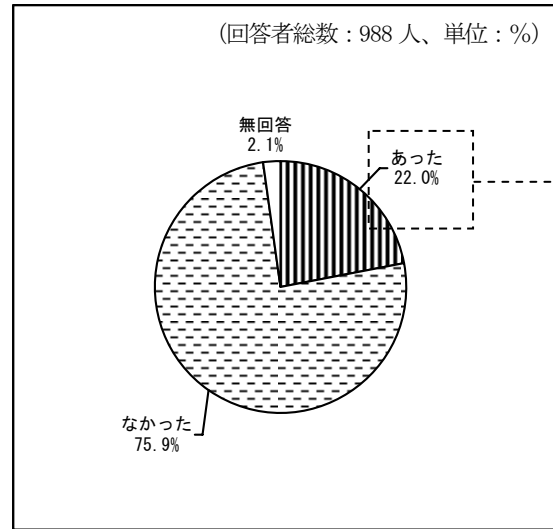


図28：対処方法〈複数回答〉

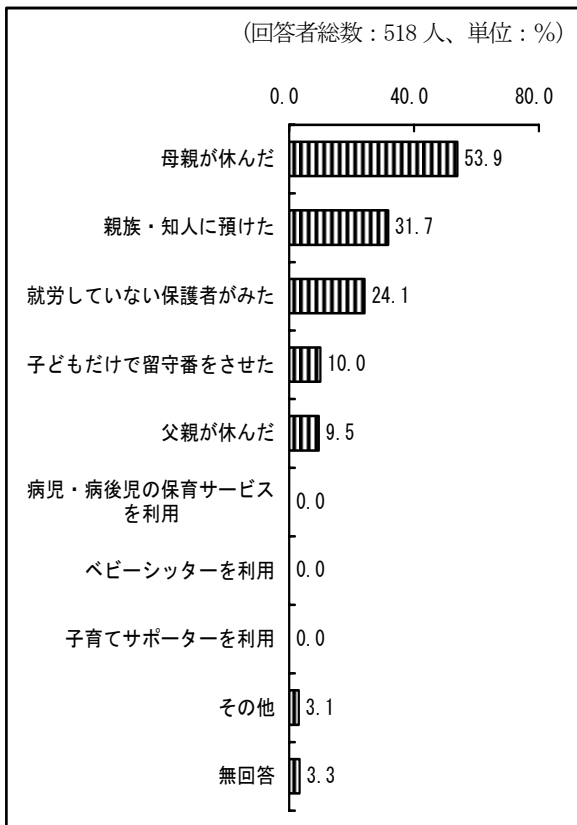
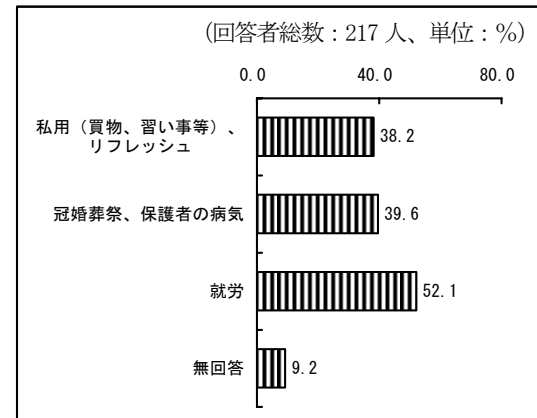


図30：預けた理由〈複数回答〉



### (3) 笠間市の子育て環境全般

◆子育ての負担感についてみると、就学前児童の保護者の55.8%、就学児童の保護者の49.5%が「不安や負担を感じる」と回答し、「まったく感じない」人は1割に満たないことから、現実的に大半の保護者は子育てにおいて何らかの不安や負担を感じながら子育てしていることがうかがえる。また、平成16年3月に旧笠間市で実施した調査でも「不安や負担を感じる」との回答が、就学前児童で55.8%、就学児童で48.8%となっており、今回の結果とほとんど変わっていない。(図31・図32)

不安や悩みの内容は、就学前児童が「子どもをしかりすぎているような気がする」、就学児童の保護者は「子どもの教育に関すること」が最も高いが、次いで「子育てに出費がかさむ」が続いている。この結果も旧笠間市、旧友部町で実施した前回調査と同様の傾向であるが、前回と比べると「病気や発育・発達に関すること」よりも「子育てに出費がかさむ」といった回答が上位を占めた。(図33)

図31：子育ての負担感【就学前】

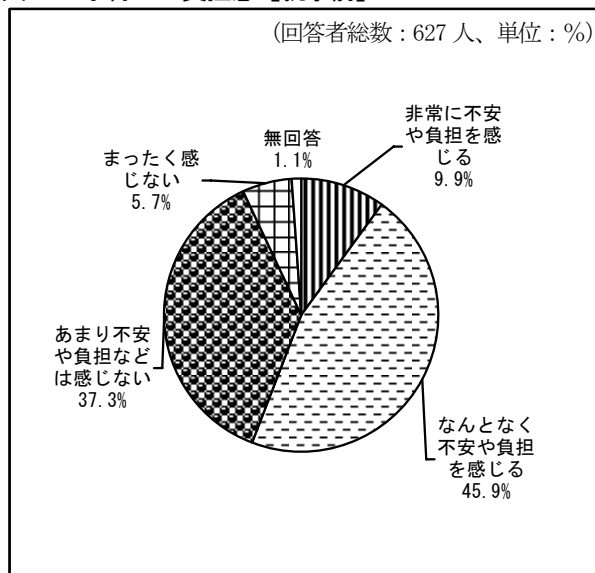


図32：子育ての負担感【就学児童】

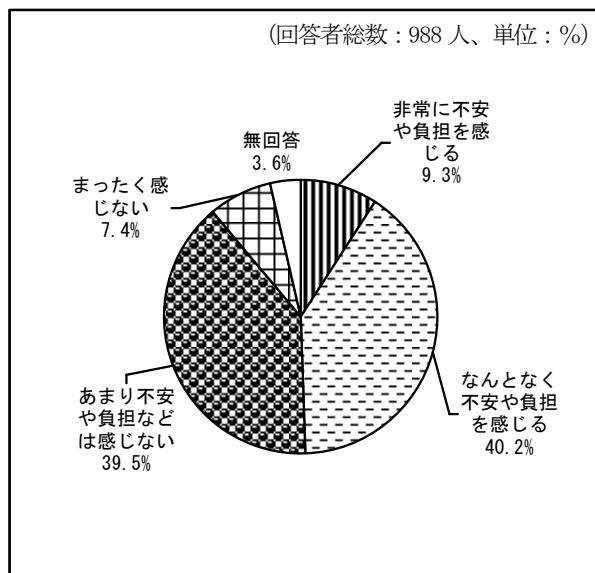
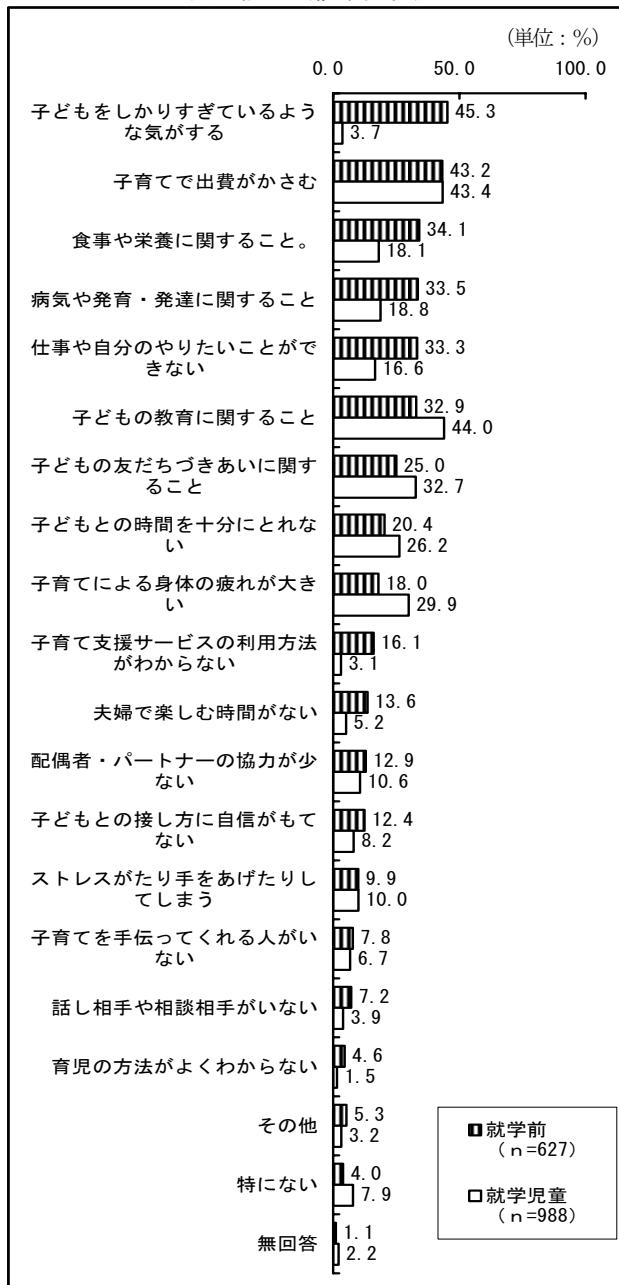
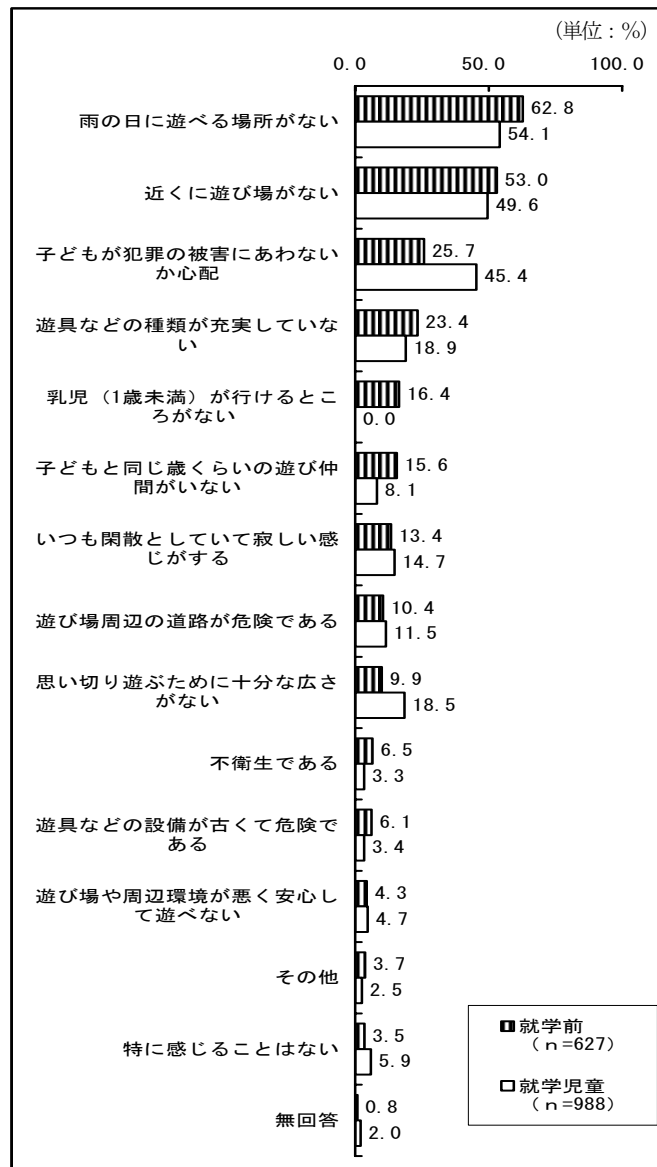


図33：日常の不安や悩み〈複数回答〉



◆子育てしやすいまちづくりに関して、子どもの遊び場は就学前児童と就学児とも「雨の日に遊べる場所がない」と「近くに遊び場がない」が高い。特に「近くに遊び場がない」を地区別でみると笠間地区が47.5%に対し、友部地区が51.1%、岩間地区は68.1%と20ポイントも上回って高い。旧岩間地区の前回調査をみても今回と同様に「身近な遊び場」に対する要望は高い。自由記述でも、身近な公園、遊び場等の設置を望む声が各地区からきかれるが、地区によっては「車がないと子どもが遊べる公園へ行けない」、また、児童館など雨の日でも遊べる屋内施設の設置を望む声が比較的多い。（図34・表6）

図34：子どもの遊び場（複数回答）



【地区別】（就学前）

表6：子どもの遊び場（上位3位までの選択肢のみ掲載）

単数回答	全体	地区別		
		笠間地区	友部地区	岩間地区
回答者総数	627 (100.0)	198 (100.0)	276 (100.0)	116 (100.0)
雨の日に遊べる場所がない	394 ( 62.8)	128 ( 64.6)	180 ( 65.2)	68 ( 58.6)
近くに遊び場がない	332 ( 53.0)	94 ( 47.5)	141 ( 51.1)	79 ( 68.1)
犯罪被害にあわないか心配	161 ( 25.7)	46 ( 23.2)	83 ( 30.1)	23 ( 19.8)

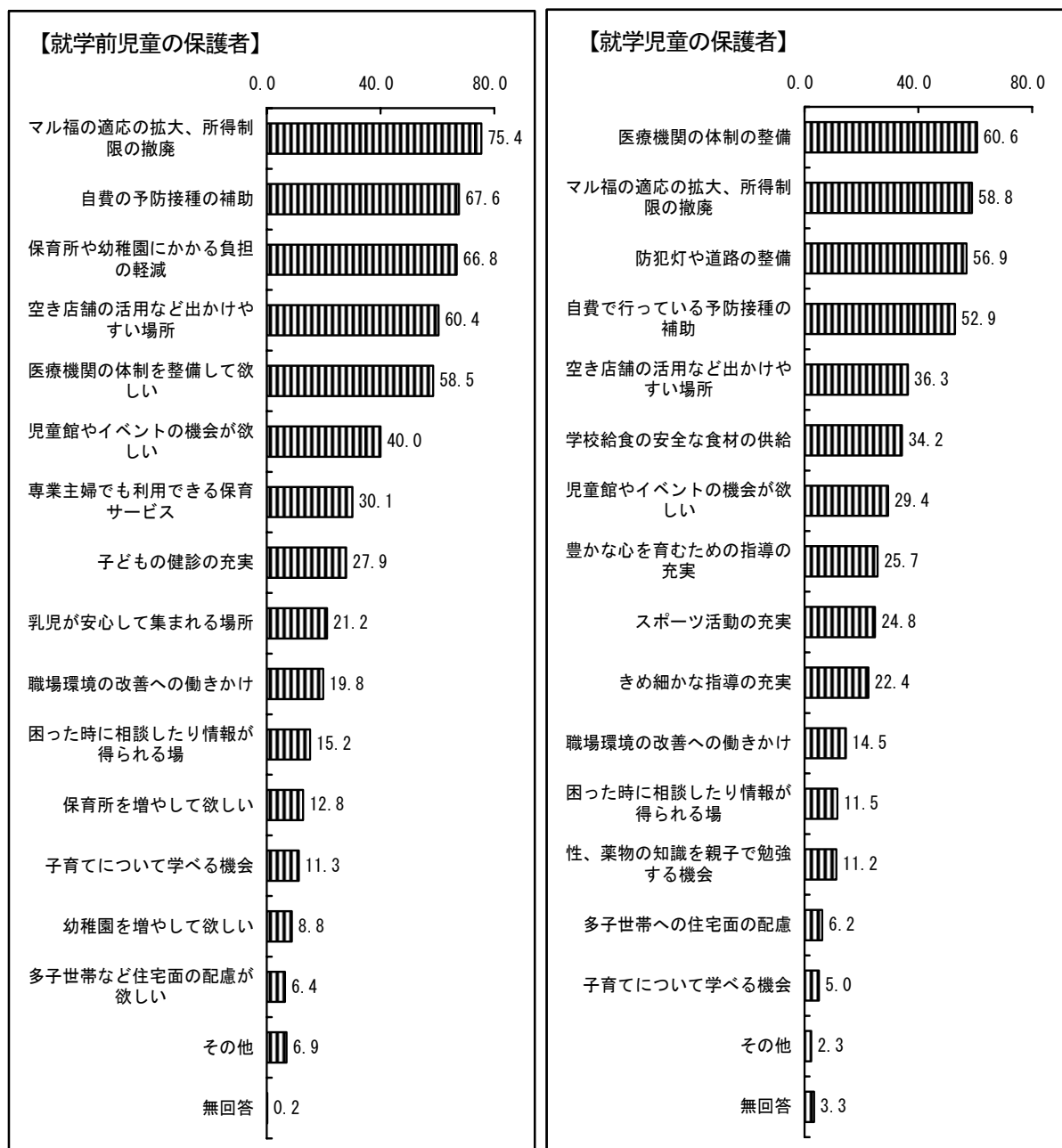
注) 地域別「無回答」を除く。%は非表記の選択肢の人数も含めた割合。

◆笠間市の子育て支援の充実を図ってほしい内容をみる。就学前児童の保護者の上位をみると「マル福の適応の拡大、所得制限の撤廃」が75.4%で最も高く、次いで「自費の予防接種の補助」と「保育所や幼稚園にかかる負担の軽減」が続き、すべて“経済的負担の軽減”に関する内容である。自由記述でも、「マル福の年齢引き上げ（小学生も適用にする）」や「マル福や児童手当等の所得制限の撤廃や見直し」、「インフルエンザ等予防接種費用の無料化や補助」が多くだされた。特に、双子や第3子のいる家庭では子育てに関する費用負担の軽減を望む声が高い。

就学児童の保護者についても費用負担の軽減が比較的高い中で、「医療機関の体制の整備」が特に高い。今年度から24時間体制でアドバイスする『かさま健康ダイヤル24』を開始したところであるが、「休日・夜間の救急などは水戸市などに行かないと受けられない」、「市内に小児科が少ない」といった医療体制についての意見があげられている。次いで、「防犯灯や道路の整備」が高い傾向にある。（図35）

図35：笠間市の子育て支援の充実策（複数回答）

（単位：％）



#### (4) 自由記述意見の主な内容

##### ◆子育てにかかる費用負担の軽減

- 《意見》 マル福の期間を延ばしてほしい。小学校入学すると怪我の回数も多くなるので期間が長くなれば負担も軽くなってくると思う。
- 《意見》 マル福の年齢引きあげをお願いします。インフルエンザの予防接種を昔のよう学校で行ってほしい。
- 《意見》 第3子を持つ家庭を金銭的にバックアップしてほしい。お金がかかるから、3人目は産めないという環境をなくしてほしい。
- 《意見》 自費で行っているインフルエンザ予防接種の全額補助をお願いします。芸術の村、春風萬里荘の入園を無料にしてほしい。工芸の丘内で行っている、陶芸体験やクラフトアート他の料金を補助してほしい。
- 《意見》 マル福の適用範囲、児童手当の適用範囲を拡げ、所得制限を見直してほしい。

##### ◆夜間・休日診療してくれる救急医療体制、小児科専門医の確保

- 《意見》 小児科専門の病院がないことが不満です。中央病院に小児科がない。夜間に対応してもらえる病院が近くになく、とても不安に感じたことがありました。
- 《意見》 笠間市に小児科専門の先生がいる病院がないので、水戸市の小児科に受診をしています。自宅の近くにてできれば、健診や予防接種など同じ先生に見てもらえるので、小児科を作っていただきたいです。
- 《意見》 夜間・休日に診療してもらえない場所がないので、24時間の小児科があるといいです。こども病院はめったに診察してもらえないそうなので。
- 《意見》 子育てに困った時に相談できるホットラインや急病時の相談ができるホットラインがあると便利だと思います。

##### ◆放課後児童クラブの定員増、高学年の受け入れ

- 《意見》 放課後児童クラブが3年生までのため、4年生から一人で自宅に居なくてはならなくなります。個人の状態を考えて必要な家庭のために定員を増やしたり、4年生以上でも児童クラブに行けるようにしていただきたいです。
- 《意見》 学童保育について、待機児童ゼロを目標に教室の確保や設備、人員の増員等を進めていっていただきたい。学校ごとに設備や仕組みに違いがあるのも変だと思います。
- 《意見》 ぜひ「放課後子ども教室」を開始してほしいと思います。参加を希望します。

##### ◆子どもたちの身近な遊び場、親子が集える場所の整備

- 《意見》 父親も一緒に参加できるように日曜日にイベントを行ってほしい。児童館など、もっと子どもが遊べる場所を増やしてほしい。
- 《意見》 子育て支援センター（岩間）が出来たのでうれしい。公園が近くにないため、屋外で遊べる施設があるとありがたい。
- 《意見》 児童館があればいいなと痛切に思っていました。さらに遊びのリーダー、補助員などの存在があれば素晴らしいですね。
- 《意見》 遊具がある公園等（ブランコ、滑り台等、数は少なくてもよい）手軽に遊べるところを増やしてほしい。